

2022年度重点目標・結果(2022年4月1日～2023年3月31日)及び2023年度対策案

<基本情報>

1. 学生数(2022年4月時点)

学科名	1年生		2年生		総計	
	男	女	男	女	男	女
医療事務学科	0	21	1	25	1	46
	21		26		47	
薬業学科	2	11	0	11	2	22
	13		11		24	
合計	2	32	1	36	3	68
	34		37		71	

※2020年度:92名、2021年度:81名

2. 教職員数

学校長	1名(兼務)	非常勤講師	15名
部長	1名(兼務)	広報	2名(1名は兼務)
教務	4名(1名は兼務)	事務	2名(兼務)

<重点目標結果・検証及び次年度目標>

1. 休退学者の削減

	学生数	退学数	休学数	目標率	結果	達成率	目標数
全体退学率	71	3	1	4.23%	5.63%	75.1%	3

※2020年度:2.2%、2021年度:3.7%

[休退学内訳]

1年生 退学2名 休学1名

2年生 退学1名

<退学・休学理由一覧>

理 由	人 数
1) 勉強理由	0
2) 健康的理由(精神疾患1名)	1
3) 経済的理由	0
4) 学校がつまらない・業界に魅力を感じない	2 ※休学1名
5) 欠席による理由	1
6) 進路変更による理由	0

【医療事務学科2年】新年度開始当初から医療事務学科2年生から退学者がでてしまった。1年時から欠席が多く、進級前に「2年になったら頑張ってすぐに就職する」と言ってたため、心機一転頑張る気持ちになったであろうと安心していましたが、開始直後のオリエンテーションから登校せず、直接話す機会もなく退学となった。1年次からクラスメイトとの関係がうまくいっておらず、クラスで過ごしたくないという思いを吐露しており、精神的にも病んでいる状態。

【医療事務学科1年】入学前から中学時から問題行動を起こしていたことを自ら話していた学生だったので注視していたが、入学後の行動もホストに通ったり、顔にピアスを開けたり、タトゥーを入れたりという状態になっていき、校内でも気に入らないことがあると「殴りたい」と発言したり、授業中に教科書をゴミ箱に捨てて帰ったりするなど、粘り強く話をしても一向に改善がみられない学生であった。クラス内でも浮いている状態で、勉強にも業界にも興味なくなったとのことで退学となった。

【薬業学科1年】退学1名、休学1名。退学者はドラッグストアでのアルバイトが遅い時間まで続き、寝坊や欠席が1年間改善することなく、出席率不足となり退学となった。休学者は入学当初からコロナになったり、持病のアレルギーが出て欠席を余儀なくされ、モチベーションの維持が難しかった様子である。

[次年度対策等]

1. 学生ひとりひとりと接する時間を増やす ⇒ 授業のない日にも毎日必ずクラスに顔を出し、雰囲気や様子を確認する。定例会議でのクラス報告以外にも毎日のクラスの様子を確認後に気付いた点は毎日部署内で共有し、担任以外の教員も情報を共有する。
2. クラスの雰囲気を作る、一体感を作る ⇒ コロナの状況を見ながらにはなるが、高校時も制限のある生活を強いられてきたと思うので、可能な限り行事やクラスでの取り組みを実施したり、共通目標(検定合格率、出席率、コロナの取り組みなど)を作成し、同じ目標に向かって取り組み一体感を作る。

2. 就職(2023年4月1日現在:最終)

	就職希望者に対する数字			卒業数	就職希望数	決定数	卒業生数に対する就職率
	目標	結果	達成率				
総合就職率	100.0%	97.0%	97.0%	36	33	32	88.9%
専門職就職率	97.3%	97.0%	99.7%			32	88.9%
就職対象外率	2名	3名					

※2020年度 <総合就職率>97.8% <専門職就職率>95.6%

※2021年度 <総合就職率>100% <専門職就職率>100%

[検証・次年度対策等]

2022年度対策①早期就業促進対策

- 9月末での決定率は90%以上となり、目標達成。

2022年度対策②内定者辞退の減少

- 6名の辞退者がでた。
内訳としては、企業側に問題があったケース1、辞退2、取消4となり、前年度は取消になった学生の割合が多い結果となった。

2022年度対策③1年生に対する対策(授業の必要性・仕事のやりがい・魅力などを伝え、2年時の就活スタートダッシュにつなげる)

- 就職対策授業内でも周知し、2年生の就活を早めることが出来た。(9月末での決定率90%強)

2023年度対策①早期就業促進対策

- 就職活動意識向上を目標に、2年次の就職ゼミでは就活が遅れたことによる先輩たちの失敗事例などを伝える他、業界講話、OG講話を通じて就活意欲向上、早期就業の促進に努める。今年度もコロナの影響を受ける懸念がある為、これまで以上に本校の売りである早期就業の必要性を学生に理解させ、9月中に70%の決定率を残すために全職員でバックアップする。

2023年度対策②内定者辞退の減少

- 社会人として働く必要性や、業界就職のやりがい、先輩たちの失敗事例などを伝える他、すぐに逃げ出すことのデメリットを伝える。仕事の大変さに耐えられずに戻るケースが多いので、早い時期からSOSを感知するために日頃から学生のSOSを受け取る環境を整えると共に、企業からも学生の状況を毎月の実習レポートなどで入手できる体制を構築し、企業とのコンタクト強化も図る。

2023年度対策③1年生に対する対策(授業の必要性・仕事のやりがい・魅力などを伝え、2年時の就活スタートダッシュにつなげる)

- 授業の必要性・仕事のやりがい・魅力などを伝えていき、2年時の就活スタートダッシュにつなげる。

3. 卒業時アンケート(卒業年次の学生が評価<4点満点>)

2022年度
3.45

2021年度	2020年度
3.27	3.4

結果詳細は別紙

[検証・次年度対策等]

医療事務学科では「知識:3.01」→昨年比-0.37、「技術:3.25」→昨年比-0.05、「社会人基礎力:3.19」→昨年比-0.3、「職業意識と意欲:3.16」→昨年比-0.15とすべてDOWNとなり、特に知識面での結果が大きなマイナスとなっている。診療報酬請求事務能力認定試験の取得ができず、その項目は2.24(昨年比-1.2)と大きく影響したと考えられる。学力や意欲に差のある学生が多くいることから医療事務の授業は少人数でのグループ授業に変更するなど、ひとりひとりに時間をかけてあげられるような対応に変更した。

薬業学科についてはクラスの雰囲気も良く、資格取得にも積極的であったため「知識:3.47」→昨年比+0.34、「社会人基礎力:3.72」→昨年比+0.16、「職業意識と意欲:3.25」→昨年比+0.06とプラスになっており、学生自身が学習内容や事故の成長に一定の成果を感じている結果となった。

両学科ともクラス担任に対する評価は高く(医療事務学科3.72、薬業学科4.0)、新年度もクラス担任を中心に、医療事務学科は知識や資格の修得を目標に、薬業学科は接遇面での技術向上を目標に取り組んでいきたい。